令和7年度　八幡浜市立江戸岡小学校評価報告書(前期)　R7年12月集計

保護者アンケート 児童103名分　　教職員自己評価　11名　　児童アンケート108名回答（全校児童110名）

4：よくあてはまる　　3：だいたいあてはまる　　2：あまりあてはまらない　　1：まったくあてはまらない　　無：わからない、無回答

A：十分に達成されている(肯定率90％以上かつアンケート評価4評価35％以上を目安)　　　　B：相当程度達成されている（肯定率75％以上）

C：やや不十分である（肯定率60％以上）　　　　D：不十分である（肯定率60％未満）　　　　※　肯定率：アンケート4・3を選んだ割合

評価項目	評価指標		評価	評価資料	アンケート結果 4	3	2	1	肯定率（%）	評価4（%）	学校による考察（○）・改善方策（◇）
学校生活	児　童：学校は楽しい。 保護者：学校が楽しいと言っている。 教職員：児童が楽しいと感じられる学校づくりに努める。	前	A	児童アンケート1	57	41	8	1	92	53	○多くの児童が学校が楽しいと感じているが、児童と保護者の評価で、楽しいと感じられていない児童の存在が見受けられる。 ◇学校が楽しいと感じられていない児童の様子を把握し、一人一人に目を向けた対応に努める。
		前	B	保護者アンケート1	51	30	9	2	88	55	
		前	A	教職員自己評価1	6	5	0	0	100	55	
		後	B	児童アンケート1	52	42	11	3	87	48	○学校が楽しくないと感じている児童の割合が前期よりも高くなった。高学年になるほど、人間関係で悩みを抱える児童が増えている。 ◇他のアンケートや教育相談等の機会を利用して児童理解をよりいっそう深め、児童の不安や悩みの解消に努める。
		後	B	保護者アンケート1	52	39	10	2	88	50	
		後	A	教職員自己評価1	6	5	0	0	100	55	
学習指導	児　童：授業は分かりやすい。 保護者：授業が楽しく分かりやすいと聞く 教職員：分かる楽しい授業づくりに努めている。	前	A	児童アンケート2	63	38	5	1	94	59	○意欲的に授業に取り組み、授業が分かると感じている児童が多い。 ◇授業が分かりやすいと感じていない児童の実態を把握し、丁寧な指導と個別指導等を含めた対策を図る。
		前	B	保護者アンケート2	45	36	10	1	88	49	
		前	A	教職員自己評価2	4	7	0	0	100	36	
		後	A	児童アンケート2	47	57	4	0	96	44	○肯定率が高く授業が分かりやすいと感じている児童が多い。評価「1」「2」の回答をした児童の割合も減ってきている。 ◇学年末に向けて、一年間の学習の振り返りをする時間を確保し、当該学年の学習内容をしっかりと身に付けて進学・進級できるようにする。
		後	B	保護者アンケート2	34	52	14	3	83	33	
		後	A	教職員自己評価2	7	4	0	0	100	64	
	児　童：家庭学習ができている。 保護者：家庭学習に頑張って取り組んでいる。 教職員：家庭学習の習慣が身に付いている。	前	A	児童アンケート3	62	36	8	1	92	58	○家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いが、個人差が大きく、習慣が定着しにくい児童も見られる。 ◇家庭との連絡や生活学習がんばりカードの活用で児童の様子を把握し、課題の見られる児童への声掛けや支援に努める。
		前	B	保護者アンケート3	36	42	11	3	85	39	
		前	B	教職員自己評価3	2	9	0	0	100	18	
		後	A	児童アンケート3	55	43	7	3	91	51	○全体的な肯定率は高いが、児童の評価「4」の割合や保護者の肯定率が前期よりも低くなった。家庭学習への取組が十分でない児童の様子がうかがえる。 ◇家庭学習の状況を丁寧に把握して個別支援を強化するとともに、家庭と連携して継続的に学習習慣の定着を図る。
		後	B	保護者アンケート3	36	44	20	3	78	35	
		後	B	教職員自己評価3	1	10	0	0	100	9	
生徒指導	気持ちのよいあいさつができる。	前	B	児童アンケート4	55	34	16	2	83	51	○他の評価指標と比較して、児童・保護者・教職員の全てで「2」や「1」の評価の割合が高く、今後に向けた改善が必要である。 ◇家庭や地域の協力を得ながら、あいさつの意識を高めるための取組を工夫・実践していく。
		前	C	保護者アンケート4	33	34	22	2	74	36	
		前	C	教職員自己評価4	0	7	4	0	64	0	
		後	B	児童アンケート4	49	40	17	2	82	45	○保護者の肯定率がやや高くなったが、全体的には前期と比較して大きな変化はない。継続した取組が必要である。 ◇気持ちのよい挨拶ができる児童もいるが、個人差が大きい。児童会を中心に、児童自身にも考えさせながら今後も継続して指導していく。
		後	B	保護者アンケート4	31	49	22	1	78	30	
		後	C	教職員自己評価4	0	7	4	0	64	0	
	正しい言葉遣いができる。	前	B	児童アンケート5	38	52	15	2	84	36	○あいさつの項目と同様に、肯定率がやや低くなっており、言葉遣いがよくない児童が見られる。 ◇場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いについての指導を継続する。地域や家庭とも連携した取組を工夫する。
		前	C	保護者アンケート5	17	44	28	3	66	18	
		前	C	教職員自己評価5	1	6	4	0	64	9	
		後	B	児童アンケート5	43	44	21	0	81	40	○保護者と教職員の肯定率が高くなっている。しかし、評価「1」「2」の回答も依然として一定の割合を推移しており、今後の改善が必要である。 ◇「たった一言が 人の心を温める」を合言葉に、思いやりや励ましの言葉が増えるよう工夫した取組を実践する。
		後	C	保護者アンケート5	12	62	24	5	72	12	
		後	C	教職員自己評価5	0	8	3	0	73	0	
	きまりや時間を守ることができる。	前	B	児童アンケート6	52	38	10	1	89	51	○肯定率は高めだが、デジタルメディアの活用についてきまりや時間を守れていない様子が感じられる。 ◇ノーゲーム・脳育デーの取組を継続して意識を高めるとともに、家庭と連携してデジタルメディア活用の仕方について指導する。
		前	B	保護者アンケート6	38	42	11	1	87	41	
		前	B	教職員自己評価6	1	8	2	0	82	9	
		後	A	児童アンケート6	54	44	8	2	91	50	○児童の肯定率が高く、評価が「A」となった。学校生活でのきまりは守れるが、デジタルメディアの活用については課題がある。 ◇生活・学習がんばりカードなどを活用して児童の生活の様子を把握し、課題のある児童への指導や声掛けを重点的に行っていく。
		後	B	保護者アンケート6	33	51	17	2	82	32	
		後	B	教職員自己評価6	0	10	1	0	91	0	
人権・同和教育	友達にやさしく接している。	前	A	児童アンケート7	53	47	6	1	93	50	○多くの児童が友達に優しく接しており、良い交友関係が築けている。交友関係のトラブルはあるが、大きな問題には至っていない。 ◇教職員間での情報交換や各種アンケートでの児童の実態把握を丁寧に行い、今後も問題の早期発見・解決に努める。
		前	A	保護者アンケート7	39	51	2	0	98	42	
		前	B	教職員自己評価7	2	9	0	0	100	18	
		後	A	児童アンケート7	57	43	7	1	93	53	○肯定率、評価「4」の割合とも高い結果となっている。様々な場面で友達に優しく接することのできる児童の様子が見られる。 ◇言葉遣いの評価指標とも関連付けながら、様々な活動の中でより良い交友関係の構築に努めていく。
		後	A	保護者アンケート7	51	50	2	0	98	50	
		後	B	教職員自己評価7	2	9	0	0	100	18	